

高度技術社会におけるリスク・マネージメントとリスク・ガバナンスの無視による事故

国際医療リスクマネージメント学会理事長

日本医療安全学会理事長

酒井 亮二

日本の製造業界では、戦後の高度成長期に向かった「世界の品質管理向上という国策」により、先人たちの昼夜にわたる熱心な努力の下に、米国を含む世界各国が模範とする高度技術文化を獲得しました。

しかし最近、高度技術文化を有する日本の各種の製造業界において、高度成長期以降の数十年にわたり、製品の安全性検査システムが放置・無視されていることが開示されました。つまり、事故の未然防止であるリスク管理システムの放置・軽視という風土が全社的に蔓延し、リスク・ガバナンスが存在していないことを意味しています。

「安全神話の日本においてリスク・マネージメントははやらない」という声が日本では根強いものです。リスクよりセーフティーという用語を好むのも日本人の世界におけるガラパゴス現象の1つです。欧米はリスク社会、日本は安全社会です。「事故・戦争の風化」も日本人の特徴です。ロシア人やイギリス人はナポレオンを今でも恨んでいます。日本以外では「戦争被害を風化せず、永遠に刻むものです」。アテネのパルテノン神殿は2千年前の戦果で破壊されたものです。

バブル崩壊やリーマンショックは財界、金融工学におけるリスク・マネージメントの欠如です。

医療界はある意味で技術社会です。日本では高度な医療技術が開発されています。胃カメラ、手術ロボット、各種の画像診断装置、DNA診断装置、コンピューター支援型医療... 世界に冠たるさまざまな最先端医療技術が日本では開発されています。日本の医療界もまた高度技術社会です。

しかし、最先端高度医療技術社会の日本の医療界でも、リスク・マネージメントとリスクガバナンスの軽視と無視によって医療事故が後を絶ちません。根本要因として、リスクを軽視・無視する日本人の性格があるのでしょう。

高度医療技術を実施する前の、安全性検査体制を円滑に稼働させることが、医療事故の未然防止には不可欠です。しかし、十分な安全検査体制の構築というリスク管理のタスクだけでは不十分です。出来上がった安全性検査システムの円滑な運用を組織全体が文化として共有すること、つまりリスク・ガバナンスのタスクが不可欠です。

多数の多職種が協業する今日の医療界では、高度医療技術の開発促進だけでは不十分です。組織内部におけるリスク・マネージメントとリスク・ガバナンスの向上が、高度で安全な医療、信頼される医療の実現へ必須と云い得ます。